

## 導入から12年、マスターがチームとなって 学習療法を活かして・伝える事にチャレンジ中！

大阪府豊中市／介護老人保健施設 二葉園 学習療法マスター 林田 将洋様

大阪府の介護老人保健施設二葉園の学習療法マスター林田様に、「マスターが一丸となって学習療法を活かして・伝える活動に取り組まれている様子」をお聞きました。

### ■導入から年数が経って『ただやるだけの学習療法』になっていた！

二葉園では2007年9月に学習療法を導入、くもん委員会を組織し、ご利用者の認知症の維持・改善に役立てて来ました。しかし、導入から数年経ち職員の異動に伴いくもん委員会が消滅したこともあり、だんだん導入当初の盛り上がり薄らいできました。私も含めほとんどの職員が学習療法の効果を実感することが少なくなり、『ただやっているだけの学習療法』となっていました。この頃は施設内で学習療法を続けるかどうか、というギリギリの状態まで来ていました。

### ■マスターを増員し、協力できる体制に！



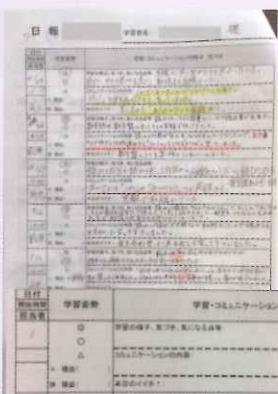
左から、井上事務長、城野さん、谷脇さん、林田さん、阪下さん（円内は川上さん）

2016年4月から始まった資格制度で、学習療法マスターとなったのは事務の城野さん一人だけで、学習療法を正しく実践していくことにも苦労していました。そんな中、「現場からも学習療法マスターを出そう」ということになり、2017年に入所の阪下さん、通所の川上さん、谷脇さん、

2018年は、私が学習療法マスター認定研修会に参加。計5名の学習療法マスターとなりました。この研修会で、学習療法の基本や効果が改めてわかり、二葉園ではまだまだ周知できていないと強く感じました。

### ■きっかけは『施設責任者の会』と『マスター指定研修会』！

2018年5月施設責任者の会に参加した阪下さんから、「こんなにいい学習療法をしているのに、二葉園ではまだ活かせていないのではないかと」言われ、「このままではいけない！」と、数カ月後に開催されたマスター指定研修会にはマスター全員で参加。マスターが実践士の成長に寄り添っている事例、



日報も独自に改訂。「本日のイネ！」欄も。いいところには月に1回マスターがハイライトしています。

月次検討会が学びの場・成長の場となり、学習療法を活かしている事例を学びました。施設に戻りマスター間で学びを共有し、途絶えていた月次検討会復活を決めました。

まずは、マスターが学習者の状況を振り返り、気がかりな方の検討、お勧めし

たい方のリストアップから始めました。日報の書式も、指定研修会のグループワークで他施設の参加者からいただいた情報を参考に、スタッフが少しでも意識を継続出来るように、そして負担にならないように、と考え、「学習の様子、気づき、気になる点等」「コミュニケーションの内容」「本日のイネ！」の3項目にわけた書式に変更しました。

以前の日報より実践士のコミュニケーションや気づきが深くなってきていると感じ始めています。

### ■まずは施設内に伝える！

また、職員に学習療法についてもっと知ってもらおうと研修会をマスターで企画。年間の職員研修の一環として、2019年、2回の研修会を実施しました。まず1月に「学習療法とは。学習療法を活かすために」（講師は3人のマスター、参加者は42人）、2回目は4月に「認知症とその対応」「学習療法の効果、活かすために」（講師は学習療法センターエリア担当、参加者は50人）で、センターHP内にある動画や資料をフル活用しました。

研修を通して、本音も聞くことができました。1月の研修では「もっときちんと学習をしよう。笑顔を忘れていた」、「（学習療法をしても）変化が見られないと思っていたが、変化が無いのが大きな成果だと知った」「学習の評価をきちんと出して欲しい」「たくさんの方にくもんを知って欲しい、二葉園の信頼にもつながる」といった声が出ました。

学習の評価をしていこう、ということになり、マスターが4ヵ月ごとにFAB/MMSEの検査を実施しWEB報告書にも入力しています。これらはご家族・ケアマネジャーへのお便りの充実等、活用していく予定です。



### ■マスターと実践士の変化、幕張シンポジウムでの発表を目指して！

マスターが協力して学習療法を「活かす・伝える活動」を進めてきた成果の1つとして、実践士がいろいろと工夫するようになってきたことがあります。これまでなら、学習に拒否があったりした場合、「あの人に学習は無理です。ダメ！」となっていました。例えば「あの方は体を動かした後だと上手く出来る」とか職員間で情報を共有し、色々な工夫をするようになりました。そして、マスターがチームとなって活動することの重要性や、「二葉園の学習療法」の無限の可能性を感じ、ご利用者様だけでなく職員全員が、当園の理念でもある「ニコニコライフ」をめざして少しずつですが進んでいきたいと思っています。

これまで研修会や学びと交流の場では他施設の発表を聞く立場でしたが、今は「来年5月の幕張シンポジウムで発表しよう！」と盛り上がっています。